湘南医療大学　ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学
所　属　保健医療学部 看護学科
名　前　松島正起
作成日　2026 年 5 月 13 日

1. 教育の責任

本学の建学の理念は、「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」である。その理念をもとに、継続的学習力、想像力、そして課題解決能力を育む「幅広い教養教育」と、エビデンスに基づいた専門知識・技術の修得を基盤とした、責任感と使命感を持って自律的、主体的に実践能力を発展させていける医療従事者の養成を基本的使命としている。看護教育において教員の責任は、単なる知識の伝達にとどまらず、学生が専門職としての倫理観を持ち、対象者を観察して、最も適したケア方法を選択し、ケアの効果を評価できる人材を育成することと考える。

私の担当する科目は、看護学概論（必修・1 年）、ナーシングスキル学Ⅰ（必修・1 年）、ナーシングスキル学Ⅱ（必修・2 年）、ナーシングプロセスⅠ（必修・2 年）、看護基盤実習Ⅰ（必修・1 年）、看護基盤実習Ⅱ（必修・2 年）、統合実習（必修・4 年）で、ほとんどが 1・2 年次に開講する看護の基盤となる科目である。看護を学びはじめた学生が、知識・技術・態度だけでなく、その学び方を講義・演習・実習を通して身につけられるようにすることが私の責務である。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

(1) 学生が看護のコアとなる知識を学べるよう教育内容を吟味する。

コアとなる知識とは、卒後も専門職者として活用できる知識で、推論、判断の前提となる。看護を提供する際、場所や使える物品、対象者が変わっても、自ら最善の看護を考えられるための知識を学べるように、授業内容を精選する。

(2) 学生の個性を生かす。

学生には個性がある。自分でじっくり考え答えを見出すのが得意な者、周囲の学生に自ら関われる者、他者の話を時間をかけて聞ける者、自らの考えを文章表現することが得意な者、それらが苦手な者などさまざまである。個々の学生の強みを見出し、それを学生に伝え、強みを生かして看護の道を進んでいけるように支援する。

(3) 学生の心情に思いをめぐらせる。

特に、学修が思うように進まない学生に対しては、現状をどう受け止め、感じているのか理解する。そして学生が、学習意欲を回復させるために、どのようなサポートを求めているのか、教員以外のサポートが必要でないか考える。

2) 理念をもつに至った背景

看護職の役割、提供する看護は、様々な外的要因で変化している。病院内で行われる看護技術に限定して考えても、感染管理や安全管理の考え方、物品の開発などの影響を受け、使用物品や手順、手技が変化している。しかし、場所や物品、対象者が変わっても、変わらない手順や手技があり、そこには看護の核心が込められていると考える。

新卒者のほとんどが就職する病院でも、急性期・回復期・療養型など、業務内容や患者と関わる時間が異なる。また、看護職が活躍する場は、病院に限らず高齢者施設、行政、学校、研究所など多岐にわたる。学生には、自己の強みを認識し、それを活かせる職場を選択し、その後のキャリアを発展させてほしい。

看護師は、患者が病気やケガをどのように現状を受け止め、感じているか、またその症状がどのような不都合をもたらしているか、その人を全体として捉えている。学生も何らかの原因で、学習や就職活動が思うように進まない場合、それがまた原因となり、何らかの不都合が生じている可能性があると考える。

3. 教育の方法・戦略

1) 学び方を身につけられるようにする

講義形式を最小限に抑えて、アクティブラーニングを取り入れ、自分が理解できる方法を、学生自身が理解できるようにする。

反転授業を採用し、学生が知識を「受け取る」学習から「活用する」学習へ移行できるように工夫している。授業前にテキストを読んで取り組む事前課題を提供し、基礎知識を自主学習する。対面授業ではその知識をディスカッションで確認、クラスで共有し、知識の定着を図る。授業開始時と終了時に小テストを行い、事前学習や授業での学修成果を確認する。

シミュレーション教育を導入することで、実習での対応力を強化する。看護技術を学ぶ際には、簡単な症例を用いてロールプレイを実施し、患者の状態にあった適切な援助が実施できたか、改善すべき点がないか、学生が自らの実践を振り返り、より良いケアを学べるようにする。

2) 看護のコアとなる知識を学べるよう教育内容を吟味する。

講義・演習での学習内容は、対象者が小児、成人、高齢者と変化しても共通して必要となる知識を中心とする。特に看護技術の授業においては、様々な場面で応用できるように、手順や手技の根拠を理解することを重視する。そのための自己研鑽として、教員が、何を、どんな意図で、どのように教えているか、日本看護技術学会学術集会の交流セッションで、看護技術の教育者とディスカッションしている。

3) 学生の個性を生かす

学生をよく観察し、褒め、自信を持たせて、調子を引き出し、その気にさせる。担当している看護学概論、ナーシングスキル、ナーシングプロセスは、それぞれの科目を学習するために必要な力が異なる。個々の学生が学習する様子を観察し、「よく読んで理解できていますね」「手の使い方が良いですね」「よく考えて文章が書けていますね」などと、できていることを言葉に出して認め、学生が自分の強みを認識できるようにする。そのための自己研鑽として、フィードバックに関する書籍を読み、学びを深める。

4) 学生の心情に思いをめぐらせる。

学生と対面での面談を大切にし、学生が現状をどう感じているか理解する。そして、生活環境や価値観、過去の経験などが、現状やその捉え方に影響していないか確認する。学生には誰もが唯一無二の存在であることを伝え、自らの考えや希望を表現できるように配慮する。そのための自己研鑽として、学生世代を理解するための書籍を読み、知識を習得する。

4. 学習成果

担当単元（ナーシングスキルⅡ：与薬・注射）について、学生より以下の意見が寄せられた。

・グループワークに意味があり、形だけのグループワークになっていないのが良い。
・グループワークで意見交換をしたことで、内容がより頭に入ったので続けてほしい。
・マイクを回されて答えが分からなくても、ヒントをくれて解答に導いてくれるのが良かった。
・講義中に適宜学生を絡めてくれて、集中して講義を受けることができた。
・最後に私たちの良いところを褒めてくれるのが嬉しかった。

5. 改善のための努力

担当単元（ナーシングスキルⅡ：与薬・注射）について、学生より以下の意見が寄せられた。

・グループワークだと講義感がないので先生が講義して教えてくれた方がよい。
・重要な手技なので講義を中心にしてほしかった。

教員からの丁寧な説明を求める意見もあった。臨床での事故事例の紹介や患者へ適用する場合の注意事項など、丁寧な説明をする内容を追加する。

6. 今後の目標

＜短期目標＞

1）日本看護技術学会に参加する。

基礎看護技術について他大学等でどのように教授されているのか、他領域とどのように連携して教授しているのか情報収集する。また、本学の演習内容の改善に活かすため、基礎看護技術の科学的根拠について客観的データを用いている研究者と意見交換する。

2）担当科目が相互に学生の学修に活かせるような構造になっているか、授業計画と学習内容を確認する。

患者の身体状況を把握するためのヘルスアセスメント学Ⅰと、患者の身体状況から選択したケア方法を学ぶナーシングスキル学Ⅰ、より医療行為に近い技術を学ぶナーシングスキル学Ⅱが、学習内容の積み上げとなるよう、それぞれの授業内容を

確認し、必要に応じて授業計画を修正する。

＜長期目標＞

1) 学習成果と学生満足が得られる授業を展開する。

学生が学びたいと思える魅力ある授業を展開できるように、授業改善のための自己研鑽を続ける。

2) 教育成果を発表する。

担当科目が相互に学生の学修に活かせるような構造になっているのか、教育成果を研究発表することで、授業改善を図る。

【添付資料】

なし